

科目名 成人看護学実習Ⅲ 時間割表記名 成人看護学実習Ⅲ	配当時期 3年次 単位数 2単位 時間数 90時間（12日間）	講義担当者 坂本めぐみ
事前学習内容 実習要項参照		
実習目的 成人期にある患者及び家族を総合的に理解し、発達段階および健康の段階に応じた看護を実践できる能力を養う。 実習目標 1. 終末期にある患者の身体的・精神的・社会的・霊的特徴を理解できる。 2. 終末期にある患者及び家族の看護問題を総合的にアセスメントし、必要な看護を理解することができる。 3. 終末期にある患者のニーズを把握し、QOLの維持・向上のための援助ができる。 4. 継続看護の必要性を理解し、他部門・チーム間の連携や社会資源の活用について理解できる。 5. 自己の死生観について深めることができる。 6. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
教育目標との関連 1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。 2. 人々が生活するうえでの健康の意味を、環境との相互作用の観点から理解する。 3. 対象の生活をよりよくするために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人として倫理観に基づいた看護を実践できる能力を養う。 5. 保健医療福祉制度とそれに関わる職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力を養う。		
授業の流れ 終末期にある患者は、病気の進行や治療の影響など様々な要因が重なり、痛みや消化器症状、運動機能の低下などの身体的苦痛が出現することがある。また、これらの身体症状や病状に関連して不安や恐怖等の精神的苦痛を感じることもある。さらに、これまで果たしていた仕事上や家庭内の人間関係、経済的な問題などという社会的苦痛の増強を引き起こし、自分の生きている意味や目的を見いだせなくなるなどの霊的苦痛を感じることもある。これらの身体的苦痛と精神的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛は相互に影響しており全人的苦痛となっている事が多く、苦痛が続くと人間が本来持つ意思決定能力やそのみなもとにある自尊心や自律心を脅かすことを理解し、その援助について学ぶ。 成人期は、家庭の形成や社会においての中心的な責任を担う立場になる。この時期に疾病の回復の見込みがない状況が突然降りかかってくることにより、家庭や社会においての役割の大きな変化がおこり、社会的役割を遂行できないことに対する葛藤や、残される家族への思いなど心理的葛藤が考えられる。また、これらの対象を支援する家族も心理的苦痛を抱え、さまざまな予期悲嘆と同時に残された日々が安らかに過ごせるようにという希望を持っている。看護師は、このような特徴を持つ患者の全人的苦痛を理解し身体的苦痛の緩和を行ったうえで、自律性や主体性を支え、生きる意味の探求を支援し、その人らしい生活を送ることができるように援助していく必要がある。これらのことから、本実習では、終末期にある患者を		

理解し、患者・家族の苦痛を全人的にとらえ、残された日々を安楽に過ごすための疼痛コントロールや苦痛緩和を行い、その人らしさを尊重し QOL を可能な限り維持・向上できるよう援助を学ぶ。また、患者の看護をととして、死生観を深める機会とする。

以上の内容について、終末期にある患者を受け持ち看護過程の展開を次のいずれかの診療科病棟(血液内科病棟、消化器内科病棟)で実践する。また、緩和ケア病棟の一日見学実習をととして、緩和ケアの実際について学ぶ。

評価

ルーブリックに沿って評価する。

使用するテキスト

①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院

②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院

他 既習のテキストを活用する

参考文献